

第1回 阿賀野市市政モニター会議 議事要旨

1 会議の概要

日 時 令和元年8月 29 日(木)午後 7:00～8:30

場 所 阿賀野市役所 第1多目的ホール

出席者

【モニター】(敬称略)

月岡 健一、権瓶 佳子、赤沼 映美子、遠藤 志野、塩田 亨、田村 真樹、
廣川 亜美、土岐 一希、雪 薫、伊藤 明美、榎本 英樹、遠藤 洋二

【市】

市長政策・市民協働課:課長 苅部 一雄、課長補佐 遠海 美穂子、
秘書広報広聴係主任 小林 政仁、同係主事 小林 佳乃子

2 議事概要

普段の生活の中で感じていること、地域や身の回りで起きている変化、疑問に思うことなど

3 主な意見

【運動・スポーツ、健康】

- 阿賀野市総合型クラブでは、幼児期の年中、年長を対象に体力測定を行い、保育園や幼稚園に運動支援に入る「子どもの体力向上支援事業」を行っている。昨年、一昨年とスポーツ少年団の入団者数が3～4%増えた。

幼児期から小学校低学年までの運動教室は、新潟市だと1か月あたり5千円、入会金4万円程度の料金がかかるところを、阿賀野市の場合は低コストで運動できる。

例えば、高齢福祉課ではめきめきメモリメモリ若返り教室(めきメモリ)、健康推進課では元気長生き応援隊やシャキイキ教室などを実施しているが、各課にある運動関連事業を一本化できないのか。福祉や健康、スポーツの分野について、まとめて話ができる課があるといい。

また、市で立ち上げた事業を手放すのはいいが、ある程度のフォローはするけれども、あとはよろしくでは、その後に入る人もいないし、活動は衰退していく。

- 運動に参加できる人は、ある程度健康な人。参加できない人の体力が落ちている。参加できない人の体力向上のためには、地域に出向くことが必要。しかし、地域の集会場にも集まらない人がいて、生活の中に笑いが無いとか、心の感動が無いとか、それが認知症につながっていく。保健師などが一人世帯訪問を行っていると思うが、外に出られない人のケアが大切だと思う。

阿賀野市は健康づくりに頑張っていると感じる。

【市営バス】

- 障害者就労支援施設かがやき(安田地区)の利用者で、市営バスと新潟交通バスで通っている人がいるが、その利用者から「市営バスの最終時間が早く、施設に長くいけない。土曜日はバスがないので通えない」と聞いた。

【子育て支援センター】

- 子どもが小さかったとき、保育園に併設されている子育て支援センターを利用していたが、基本的に土日は休みで、昼休みがあるため午前・午後を通していらなかった。しかし、「子育て支援センターにこここ」は、土日もしっかりやっていて、中で食事もできるし、予約すれば部屋を無料で貸してくれる。市内にはファミレスがあまりないので、友達とお茶をするときの場所としても利用でき、大変ありがたい。

【農業者支援】

- 市道の法面の除草作業について、大概は隣接する田んぼを持つ農家が草刈りや除草剤散布を行っている。しかし、これは市道なのだから、市が行うのが筋だという話が出ている。これから農業の担い手が減って農地の大規模化が進む。そうすると、法面の除草作業にかなりの労力とお金がかかるので、市の補助があってもいいのではないか。農業は市の基幹産業。もっと農業者を大事にしてほしい。

【商工業(瓦産業)】

- 瓦屋は最盛期の昭和50年代は27軒あったが、現在は窯元が2軒になった。瓦ロードは、少しでも瓦産業を残していくために、8年前に市から整備してもらったもの。年々瓦屋が減ってきており、安田瓦は思っているほど知名度がない。

10年ほど前から、瓦組合青年部がふるさと村やイベント会場などで PR 活動を行ってきたが、それでも厳しい状態であった。6年前、ガーデニングが流行っていて、

瓦を使ったガーデニングを見せるイベントをしようと始めたのが瓦ロードフェスティバル。当初から瓦屋だけでなく、市の農産物や飲食店などから協力してもらっている。今年は過去最高の6,500人来てもらった。今思えば、瓦ロードフェスティバルをやっていたからメディアにも取り上げてもらった。一つ言えるのは、メディアが食いつく、インスタ映えをするスポットがあると、人が集まってくるのかなと思う。瓦ロードフェスティバルは毎年テレビ局から来てもらっているが、アンケートを取るとテレビを見て来た人が多い。

現在、瓦テラスでミニ鬼瓦体験を定期的にやっていて、参加者から喜んでもらっている。家に持ち帰って3週間くらいすると固くなるので、それでとっておけるが、窯元に持ち込んでもらえれば、サービスで焼いている。瓦ロードと窯元に足を運んでもらって、いろいろな展示物を見てもらい、瓦のイメージが変わってくれればと思っています。

【商品パッケージ】

- 個人差はあるが、女性はパッケージに惹かれる人が多い気がする。商品や建物もおしゃれなだけで惹かれ、それを撮って SNS (Twitter やインスタ) で発信する人が多い。市内で売っているお土産などのパッケージは渋いものが多いので、もう少し工夫してみてもどうか。

【市内企業のネットワーク化】

- 市のホームページに阿賀野市の魅力がいくつか載っていて、その最後に「新潟駅も通勤圏内」とある。これは仕事を新潟市に求めることを前提として書かれているものであるが、市内に職を求めることは難しいのか。

以前、勝屋工業団地を見学させていただいたとき、パンフレットに「勝屋工業団地を学園都市にしたい」とあった。団地の中に人が住み、人が集い、子どもたちを遊ばせる場所があり、学校や職場も地域内にある。それらがセットされたものが学園都市だと思う。そういったセットができるよう、市が誘導する施策があればいい。

例えば、旧大和小学校に誰でも使える自然乾燥施設がある。地元栽培の有機米を米粉にして、地元の製麺業者に依頼し、パスタを作るとか、考えられる。腎臓病の方が米を食べられるようにタンパク質を落とす加工技術を持った企業もある。植物乳酸菌のノウハウは、おそらく世界でもトップクラスだろう。健康関連でいえば、大学の付属施設として、五頭薬用植物園もあり、いろいろな素材を阿賀野市は持って

いる。これからは、新しく作るのではなく、あるもの(業者同士)をうまくつないで新しい価値を生み出していく時代ではないか。その結果、人が集まり、広場ができて、様々に活気を生み出していくのではという気がする。阿賀野市は1次産業があり、2次産業もあって、本当に足りないのは3次産業、インターネット会社や外向けにPRしていく業種くらいか。そういった足りないものをNPOなどで補いながら、行政がネットワーク化を進めていくような施策をやってくれるといい。

【観光】

- 瓢湖は多くの人を訪れるが、インスタ映えスポットや食べ物がなく、白鳥を見て帰るだけである。例えば、瓢湖の敷地内に簡単な建物やPRツールがあり、ヤスダヨーグルトのソフトクリームや、金沢市にあるような醤油ソフトクリームをコトヨ醤油に作ってもらって販売するなど、インパクトのある観光地づくりを進めれば、もっと観光客が来るのではないかと感じる。五十嵐邸ガーデンや五頭温泉郷などにも波及効果がある。また、瓢湖駐車場から歩道橋までの導線が白鳥会館の中を通っていくようになっているが、もう少し駐車場から簡単に行けるように歩道橋を直したらどうか。冬に来てくれるお客さんのために、歩道橋に屋根をかけた方がいいと思う。
いこいの森は良い遊び場である。ジップラインや、車でそのまま乗り付けてキャンプできるように整備をすれば、もっとお客さんに来てもらえると思う。
- 毎年、農協主催の田植えツアーと稲刈りツアーがあり、遠方から子ども連れの宿泊客がたくさん来ている。とても良い取り組みだと思う。蛍を見るツアーなどもあり、市内ではあまり知られていないが、おそらく関東圏に情報発信しているのだと思う。
- 東京のパルシステムという会社が田植えツアーを行っている。ささかみ農協の組合長から、安く来てもらって、たくさん商品を買ってもらおうようなPR活動を行っている聞いた。市もこのような取り組みを行ってはどうか。
- 観光については、男性より女性が行きたい、行ってみたい所で、かつ知的なもの(文化・芸術、モノづくりなど)が人気である。
真光寺ビレッジは貸し別荘に活用させていただければいいなと思う。もったいない。会津や軽井沢の貸し別荘はとても人気がある。

- いこいの森キャンプ場は予約が必要なのか？孫がアウトドア好きで、休みのたびに犬を連れて、あちこちキャンプに行く。今すごく人気があり、予約でないと入れないようだ。

出湯のパン屋は、キャレルなどの雑誌によく出ていて、かなり人が来ている。また、出湯にできた古民家を改装した喫茶店にも女性が結構来ているようだ。そこも何かで取り上げられていた。

- 且飯野神社は知る人ぞ知るスポット。位も弥彦神社の次だと聞いた。休日は県外ナンバーの車がたくさん来ている。

- 女の子は甘いものが好きで、ヤスダヨーグルトは商品自体がインスタ映えするので、みんな写真を撮っている。それを SNS で発信するから、その SNS を見て来る人が多い。また、ヤスダヨーグルトには観光バスもたくさん来ていて、関西弁や外国の人も多い。長岡にも出店しているし、新潟市にはベーカリーショップもある。

私自身もヤスダヨーグルトを市外の人に勧めている。

- ヤスダヨーグルトは年中、交通誘導員がいる。

- 学生のときに長野県にいたが、スーパーマーケットにヤスダヨーグルトが売っていた。阿賀野市のものを県外で見かけたのは驚きだった。

月岡のわくわくファームに農家レストランとかおしゃれなレストランや和風のお菓子屋があったり、野菜や花などの直売所やジェラートを売っていたり、お店が固まっている。また、隣には公園やツリーハウス、長いブランコがある。店が単独であるのではなく、いくつか固まっていて、子どもの遊び場もそこにあると、長くいられる。食事して、遊んで、物も買ってもらえる。

うららの森は、建物内に市の特産品はあるが、食事は簡素なものしかないので、長時間いられる場所ではない。(食事は、)本格的な人が作ったものでもなく、広い敷地があるのに暑いときは外にもいられないし、遊び場があるわけでもない。もう少しつながりのある建物があればいいと思う。

【公園】

- 瓢湖の白鳥公園は、人が来ているのか？

- 保育園の近場の遠足として、バスで行くことはある。
- 横越公園は早くいかないと駐車場がなくなるくらい混んでいて、周辺のコンビニは繁盛し、食べ物屋もたくさん出ている。
- 横越公園は水遊びができる浅い水場がある。夏はそれが子どもたちに大人気。ただ、日影が全くなく、風もすごく当たる。天候を選ぶとは思いますが、あの広さと山があって、長い滑り台とか遊具1つ1つが壮大。そういう意味で人気が高いのではないかな。うららの森にそういうものがあれば、みんな行くと思う。山だし、涼しいし。さらに、大人も楽しめるおしゃれなレストランがあれば、県外からも若い女性が来るのではないかな。
- 駐車場は少し狭いが、うららの森に遊具があったらみんな立ち寄ると思う。
- 今の親は、木登りなどは危ないからとさせないし、昔の遊びも分からないので、やろうとしない。だから、外遊びの方法がわからない子が多い。そういう意味でも外での遊び場は大事。
- 市立図書館近くのふるさと公園は木がたくさんあって、涼しい感じがいい。図書館に入って休むことができるし、外で遊ぶこともできる。そこに何かを組み合わせたら、良くなるのかなと思う。

【まちづくり活動】

- さみどり.org は分田小学校区のメンバーで活動している。一番下が20代、上は65歳と幅広い年齢の人がいて、話をしていると、さまざまな意見が出てくる。

個人的には、今のうちに空き家を改築し、民泊や寺子屋(塾)として活用できればと思う。地域から世界に通用する子どもが育つことができるのが私の夢。

こちらに戻ってきて年数が経つが、やはり昔に比べて寂れているイメージがある。仕事に行く途中に通る川前(前山地区)では、花を植えたプランターを置いている。プランターがあるだけで明るいイメージ。明るくないと人は来ない。

ドイツでは、帰ってから地域の広場などにみんな集まってビール飲んだりしている。明るさを出すには、やはり集まる場所が必要なのかなと思う。そういった場所が

各地域にあると交流ができ、その中でいろいろな意見が出てくるのではないかと思う。

それぞれの地域で自慢できるものがあると思う。分田も歴史を紐解くといろいろとあるようなので、それを後世に伝えていきたいと活動している。

去年は小雪だったのでやらなかったが、高齢者世帯の雪下ろしなども検討した。

自分たちが管理できるものは、今やっていかないとだめなのかなと思う。それを子どもたちが見てくれていれば、ついてきてくれると思っている。

【NPO】

○ NPO の手続き関係は阿賀野市ですぐにできるようになった。新しく NPO で何か行う場合は、行政の手伝いをしたい思いで NPO をやると思う。

しかし、行政がどういった NPO を求めているのかを示してくれないと、なかなか参入できない。だから、市職員を含め、NPO がみんなで集まり、いろいろな意見交換があってしかるべき。その会議の中で、市は求めているものを提示することで、ネットワークができてくるかもしれない。

【社会の変化】

○ 全国的に少子高齢化に伴って、高齢者世帯、単身世帯が増えている。空き家も目立っている。80代の夫婦が5年後、10年後になったら単身になるとか、どちらも亡くなって空き家になったりするのではないか。また、今は恵まれすぎていて我慢する環境がなくなった。それが、いじめや虐待・DV、離婚率の向上につながっているのではないか。女性も職を持ち、一人でも生きていける時代になった。男女ともに結婚しない人が増え、将来に不安がある。